



仙台初売り


計量みやぎ

2015.1.15
 編集発行
 仙台市太白区長町7-22-23
 (一)宮城県計量協会
 TEL 246-2466・FAX 247-1490
www.keiryo.net/

年頭のご挨拶



会長 鍋島 孝敏

新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様には、お揃いで新春を迎えられた事と心よりお慶び申し上げます。

東日本大震災から三年十ヶ月余りが経過しました。被災地では、土地や道路のかさ上げが進んでおりましたが、その完成はまだ二〜三年先との事で工場建設の目途さえ立っていない、というのが実状であります。

折しも、年末に行われた衆議院選挙において県内選出の当選者は全員が復興のスピードアップと前に進める、という事を公約に掲げておりました。選んだ有権者としての我々の責任は、その公約の実現ぶりを厳しい目で見て行き、真の意味での「復興」が為し遂げられるよう共に力を合わせなくてはなりません。

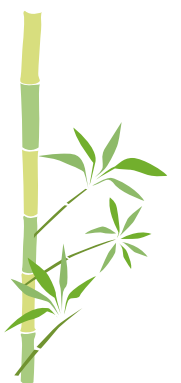
おかげ様で、宮城県計量協会と致しましては仙台市の定期検査や県下の計量器の代行検査、泉の産業技術総合センターで行っているコンクリート等の材料強度試験業務など、全体として健全な財政運営ができています。

これも、日頃からの協会理事さんを始め会員の皆様のご協力とご支援の賜物と心より感謝申し上げますが、現時

点では順調な協会運営も、被災地の復興状況に合わせて取り巻く環境も変わって来るものと思われれます。どのような状況になろうと、国民の生活や産業の基盤を支える計量の重要性は変わるはずもなく、その計量制度を現場で支える協会の使命は益々重くなる一方でと確信しております。

毎年、十一月一日の計量記念日前後に開催している「みやぎ計量のひろば」も、昨年は一日が丁度土曜日で仙台市動物公園のご協力も頂き、当日に開催する事ができました。あいにく小雨模様ではありましたが、屋根のある会場でもあり、ほぼ支障なく開催できたのは幸いです。このような一般市民への計量思想の普及・啓発事業こそ協会の一義的な役割と認識し、協会の総力を上げて取り組むと共にスーパー・百貨店等でのバック詰め商品の量目検査や郵便局の適正計量管理事業などを精力的に実施しております。

今後も、さらなる新たな事業を取り込みながら強靱な体質の協会にして行く所存でございますので、会員の皆様のご協力をお願いして私の年頭のご挨拶とさせていただきます。



復旧・復興とともに
「創造的な復興」を着実に進める年に



宮城県知事

村井 嘉浩

新年を迎えるに当たり、県民の皆様への御健康と御多幸を心から祈り申し上げます。

昨年は、本県出身の羽生結弦さんが冬季オリンピックフィギュアスケート男子シングルで金メダルを獲得され、県内のみならず、日本全国に感動を与えてくれました。

また、天皇皇后両陛下に本県被災地を御訪問いただき、私たち県民一同、大きな励ましを受けました。県内では復興の槌(つち)音が聞こえ、各地で、災害公営住宅への入居が始まるとともに、震災で休止していた事業が再開されるなど、復興が感じられるようになってまいりました。これも、県内外の多くの方々からの御支援と、県民の皆様の御尽力のたまものと考えております。

また、昨年は、「宮城県震災復興計画(平成二十三年十月策定)」で定めた十年間の道筋のうち、再生に向けたインフラ整備などを充実させる「再生期(四年間)」の最初の年でした。県では全力で復旧・復興に取り組むとともに、「宮城の将来ビジョン」に掲げた将来像を見据えて、本県が発展していくための様々な種をまき、それが各地で芽吹くよう、仙台空港の民営化や医学部の県内新設、広域防災拠点

の整備など新たな取組にも挑戦してきたところです。

今年、「再生期」の二年目になることから、昨年に引き続き、「迅速な震災復興」、「産業経済の安定的な成長」、「安心して暮らせる宮

年頭のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より、本市の指定定期検査機関として円滑な計量行政を支えていただき、安定した計量検査の実施にご尽力いただいていることに厚く御礼申し上げます。

さて、本市では、被災者の生活再建を始めとする復興事業を最優先課題として掲げ、東日本大震災からの再生・復興の実現に向けて全力を尽くすとともに、復興を成し遂げた後においても、都市の活力・活気に溢れ、質の高い生活環境を誇れる魅力あるまちづくりを進めてまいります。

このようなかで、地下鉄東西線の開業が年内の十二月と決まり、本年三月には「第三回国連防災世界会議」が本市で開催されます。世界各国の政府代表団などが一堂に

城、「美しく安全な県土の形成」を政策推進の基本として、復旧・復興を最優先に推進するとともに、「創造的な復興」に向けた様々な取組を着実に進めてまいります。甚大な被害をもたらした東日本大震災から本県が「創造的な復興」を成し遂げ、経済成長と豊かさの中で、「生まれてよかった、育つてよかった、任んでよかった」と県民の皆様が実感できる宮城県となるよう、県政運営の先頭に立って、知恵を絞りながら、前向きに、そして明るく、皆様と共に進んでまいりたいと考えておりますので、より一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

仙台市市民局

市民協働推進部消費生活センター

所長 吉田幸江

会し、今後の世界の防災戦略を策定する大変重要な会議であり、期間中は、各国首脳・閣僚級を含む多くの方々国内外から、仙台・東北においてになります。

本市としては、国連や日本政府、東北六県、大学、地元経済団体及び市民団体など関係者の皆様と連携・協力し、この会議を成功させるとともに、東日本大震災への支援に対する謝意を伝え、仙台・東北が復興に向けて懸命に努力を続ける姿と魅力を強く世界に向けてアピールしてまいります。

貴協会におかれましては、引き続き、市民生活の安全安心の確保や健全な産業活動の推進のため、ご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のお祈りして年頭のご健勝とご繁栄をお祈りして年頭のご挨拶とさせていただきます。

迎春

あけまして
おめでとうございませう

会長	鍋島孝敏	理事	安齋敏行
副会長	千葉信弘	理事	三瓶総一
副会長	笠原秀	理事	新井田匡彦
顧問	石川光次郎	理事	佐藤正使
同	渡辺博	理事	江刺茂
同	亀山弘樹	理事	工藤隆司
同	鍋島綾雄	理事	屋貝尚孝
専務理事	草刈謙一	理事	伊瀬知衛
常任理事	菅原功	理事	高橋悟
常任理事	加藤啓二	理事	吉田洋
常任理事	武田巖	理事	二階堂博
常任理事	松原大介	理事	大竹保典
常任理事	嶺岸優	監事	大湯澄
理事	高橋栄一	監事	和田剛和
理事	熱海周一	監事	加藤昌宏
理事	鈴木昇二郎	監事	加藤昌宏

(敬称略)

平成二十六年 東北・北海道計量大会

十月九日(木)ホテルさつぽろ芸文館

平成二十六年度東北・北海道計量大会が十月九日(木)に北海道札幌市「ホテルさつぽろ芸文館」で開催された。大会には、国並びに各道県の計量行政機関、計量団体、会員約百八十名あまりが集い、開会宣言の後、平成二十五年度計量関係物故者への黙祷を捧げ、主催県の東北六県北海道計量協会連合会土谷令次会長の歓迎の挨拶があり、平成二十六年度の計量功労者九名の表彰が行われた。本県からは笠原秀副会長が表彰された。

次に大会記念事業として「計る」ことを通じて健康管理に役立てて頂くために、北海道乳児院施設に「ベビースケール」が寄贈された。

続いて大会宣言が読み上げられ、満場一致で採択された。

最後に経済産業省産業技術局三浦裕幸行政室長など来賓の方々が紹介され、祝辞を頂戴し、大会は終了した。



平成26年度 東北・北海道計量大会(北海道)

大会宣言

計量制度は、経済の発展や国民生活の安定、文化の向上などに欠かすことのできない社会基盤として重要な役割を担っており、我々は、先人達が築き上げてきた貴重な財産や意志を引き継ぎながら、適正計量の確保や計量思想の普及啓発などに努力を重ねてきた。

今日、計量業界を取り巻く環境は、行政から民間を活用した規制への移行や計量器の技術革新、国際化への対応、国民生活の安全・安心への高まりなど、様々な要因が複雑に絡み合い変化を続けている。

こうした中、計量行政の一翼を担う我々は、今一度計量制度の原点に立ち返り、改めて計量制度の責務の重さを自覚するとともに、将来を見据えた計量制度のあり方について議論を深め、計量制度の安定的な発展へとつながるよう努める必要がある。

本大会を機に、計量法の目的である「適正な計量の実施を確保し、もって経済の発展及び文化の向上に寄与する」ため、決意を新たに、東北・北海道の計量関係者が結束を深め、持つ力を結集し、最善の努力を尽くすことをここに宣言する。

平成26年10月9日

東北・北海道計量大会



計量功労者表彰 笠原秀氏

第六十三次 東北六県北海道計量協会連合会総会

計量大会に引き続き、第六十三次東北北海道計量協会連合会総会が、会則に従い開催地の北海道土谷計量協会会長が議長に就き、前年度開催地であった福島県の開催報告を受けてから、議事に入った。

各県からの提出議題は次のとおりであった。

議題一 放射線測定に関する法的整備の要望について (山形県)

議題二 自動はかりに関する規制対象の要望について (山形県)

議題三 放射線測定器の使用指針について (宮城県)

議題四 放射線測定器法規制等の要望について (福島県)

議題五 連合会総会の次期開催地について (北海道)

議題一、三、四は秋田県大会から三年間続いた放射線測定に係る計量法規制要望の総括的な議題なので、一括審議とし、各提案県から、正しい放射線測定器の供給と使用について計量法で規制するなど計量行政機関が目を見せ、また正しい指針を示してほしいという要望がなされた。

この議題に対して、今年組織改編で経済産業省計量行政室長に就任した三浦裕幸行政室長から、前回までの同総会では、放射線測定計量法による規制はメリット、デメリットがあり規制は難しいという回答をしたが、それはデメリットのみを強調した誤ったもの

であり、今後問題の発生があれば法的対応を考えていきたいという積極的な回答がなされた。

議題二は、現在、「自動はかり」は計量法の規制対象外となっており、自動がゆえに安心感が強まり日々の計量管理や適正な計量がおろそかになる恐れがあり、規制の対象にすること、計量行政審議会では当該規制を中長期的に検討している答申があったが、その進捗状況と今後の見解について行政室に要望と状況報告を伺うものであった。

行政室、産業技術総合研究所から、欧州では規制対象になっており、OIML(国際法定計量機関)でもホップスケールが採択され、順次自動はかりが基準対象になっていくだろう、基準が出来れば日本のJIS規格に、組み込まれ性能が担保されていくという旨の説明があった。

これに関して日本計量振興協会では、「自動はかりの計量管理に関する調査検討委員会」が設置され検討が始まっている報告があった。

最後の議題は、本総会の次期開催地は青森県とすることで決定され、総会を終了した。

総会後は、記念講演があり、北海道出身の千石涼太郎(ノンフィクション作家・エッセイスト)氏による「ホスピタリティが地域と職場を変える」と題した講演を聴講しました。

歓迎レセプションでは、北海道大学の学生が高知県のよさこい祭りや北海道のソーラン節を融合させた「YOSAKOIソーラン祭り」の囃子や踊りを愛でながら、北海道の味を楽しみ歓談しました。

翌日の視察研修は、北海道石屋製菓の銘菓「白い恋人」の製造工場があるスウィートな世界が広がる「白い恋人パーク」テーマ館でした。メルヘン調の建物とかわい動物の出迎えに癒やされ、濃厚なソフトクリーム等の味が堪能できました。

次に映画でも有名な港町、小樽へと移動し小樽運河とロマン漂う北一硝子の坂道を散策した後、明治・大正を通じ、鯉漁で巨万の富を築き上げた山形県酒田市にある本間邸に魅せられ建てたといわれる、にしん御殿の旧青山別邸「小樽貴賓館」を視察し、NHK連続ドラマ小説「マッサン」の舞台である余市へと向かう道を背に札幌に向かい視察を終えました。



2014

計量のひろば



今年の『みやぎ計量のひろば』は、“動物と計量・ふれあいひろば”をテーマに仙台市八木山動物公園で、宮城県・仙台市・協会の共催で行いました。

当日は、あいにくの小雨煙る底冷えの天候でしたが、家族連れや、学校行事等の来園者が多数訪れ、各コーナーは賑わい、動物と計量とのふれあいを楽しんでもらいました。

今回、はじめての動物園計量クイズラリーには、雨に濡れながらも園内を巡り解答していただきありがとうございました。

平成26年

11月1日(土)

10:30~
14:00

動物計量ラリークイズ



動物園内を巡りクイズに挑戦



ラリークイズ
景品

動物と計量ふれあい広場



動物とふれあいコーナー



あったかいね



サイコロの目数の長さ
にテープを切ってみよう



アメを111gぴったり計ろう



おすび丸も応援に来たぞ!!

何でもはかってみようコンテスト

優秀賞受賞

平成二十六年十一月四日、ホテルインターコンチネンタル東京ベイで開催された計量記念日全国大会で、当県の名取市立那智が丘小学校三年生の村山にこさんが「何でもはかってみよう」コンテストで全国百六名の応募者の中から優秀作品に選ばれ受賞しました。

また、計量啓発標語部門では、本県仙台市立吉成小学校四年生の横溝麻志穂さんが佳作に選ばれました。

おめでとございます。

『受賞作品』

●何でもはかってみようコンテスト

「味かくの実験」

味覚は五種類ある（五大味覚）。甘味、塩味、さん味、うま味にが味。それぞれ味覚ごとにおいしいと思う濃さがちがうのか、人によってどれくらいちがうのかを調べてみました。

●計量啓発標語

「信頼を 未来に届ける正しい計量」

作品詳細は日計振ホームページで紹介されております。

(http://www.nikkeishin.or.jp/)



優秀賞受賞 村山にこさん

優良事業所視察研修会

in 新潟

- 新潟東部太陽光発電所
- 安田瓦協同組合
- 菊水酒蔵

平成26年度の優良事業所視察研修は、北陸の新潟県方面へ、会員16名で出発しました。

新潟県に入り、日本有数の一級河川阿賀野川に沿った小高い丘の産業団地の中にある、全国初の自治体（新潟県企業局）発電事業の太陽光発電所（メガソーラー）が最初の視察先でした。

敷地面積6.4haの工業団地の遊休地を利用して、全面に太陽光パネルを設置し、最大出力2メガワット、年間発電電力量が2000メガワット・アワー、一般家庭300軒分を発電しています。三菱・東芝・韓国製のパネル建設工事費等工費が8億5000万で、年間4200万で東北電力に売電しているそうです。

担当者の説明によると、耐用年数は17年程度だそうで、また今後増設予定の太陽光発電の売電は、政治方針の転換で買い手がなくなるのではと、木枯らし間近いパネル平野に薄寒く聞こえました。



新潟県企業局メガソーラーパネル群

次の視察先は、今では日本に3カ所しかない瓦の製造所阿賀野市の『安田瓦』協同組合でした。鬼瓦を中心に伝承の技を生かし瓦職人が作っています。また瓦の地域ブランドを広めるために瓦ロードを設け、散策する道ばたには、瓦の伝統的な作業場や、いろいろな瓦作品が並べられており、ゆったりとした気分で巡りました。最近では、テレビ“ピフォーアフター匠の技”から白鳥の焼き物を依頼され番組で放送されました。

初日の視察の後には、新潟県月岡温泉で会員同士の意見交換と懇親を深めました。

2日目の視察先は、越後の米と気候風土が優良な酒造で有名な新潟県の新発田市にある『菊水酒造』です。明治14年の創業ですが、酒の蔵元としてはまだ若輩者だそうです。昭和47年に元祖アルミ缶入りの生酒“ふなぐち（しほりたての原酒）菊水いちばんしほり”が大ヒットし、菊水の名を全国に広めました。また、酒造りの造詣から酒造の文化研究所も設け、お酒に関係のある資料収集や研究にも力を入れているそうです。その研究所を視察すると、酒販売や酒造原料に使われていた、往事使用していたてんびんや分銅が展示されていました。我が計量界に關係する貴重な計量器に出会えて感激ひとしおでした。



安田瓦ロードの瓦塀と鬼瓦三角広場



酒販売關係に使用されていた昔の分銅と天秤



菊水酒造と日本酒文化研究所

宮城県計量検定所からの

お知らせ

今年度中元期の立入検査の結果についてお知らせします。

商品量目立入検査の結果は、検査戸数十六戸、検査個数三百三十八個を行い、うち量目不足0個不適正率0%と良好でした。

例年、計量時における風袋引きの設定ミス等により量目不足が数個発生していますが、今年度中元期についてはありませんでした。適切な計量が行われています。

また、同時に行った「ほかり」の使用状態の検査の結果は、検査戸数十六戸、検査台数九十九台を行い、不適正(水平・零点調整不良)なものも、不正(定期検査未受検)なものも無く、良好な結果でした。今後、特定計量器(LPGガスメーター、燃料油メーター、タクシメーター等)・計量証明事業者・届出修理事業者の立入検査を実施する予定です。

これからの検査態勢を強化するとともに、計量思想の普及啓発に努めてまいります。



平成二十七年

定期検査

実施区域

計量法第十九条(定期検査)及び第二十条(指定定期検査機関)に基づき、仙台市の定期検査は、次のとおりです。

●青葉区・太白区

平成二十七年

特定計量器代検査

実施区域

計量法第十九条(定期検査)及び第二十五条(定期検査に代わる計量土による検査)による検査区域は次のとおりです。

●石巻市(大型はかりについては、旧石巻市のみ)・栗原市・塩釜市・多賀城市・登米市

●刈田郡(蔵王町、七ヶ宿町)・黒川郡(富谷町、大和町、大郷町、大衡村)・柴田郡(柴田町、大河原町、村田町、川崎町)・宮城郡(利府町、松島町、七ヶ浜町)

※検査対象の事業所に対しては、当協会より事前に検査日程等をご通知致します。

また、検査を受けていない事業所店舗等で、取引証明に使用されている計量器をお持ちの場合は、定期検査を受検されますよう宜しくお願い致します。(受検希望や問い合わせについては、当協会へご連絡下さい)

一般計量証明事業場主任計量者試験講習会の

お知らせ

本年度最後の計量証明事業場の主任計量者になるための試験が、宮城県計量検定所で実施されるのに伴い、計量協会では試験対策の講習会を左記により開催します。

講習会日時

平成二十七年二月二十日(金)

午前十時～午後二時

※試験は同日午後二時四十五分～午後三時四十五分

講習会場

宮城県計量検定所

仙台市太白区長町七丁目

二十二番二十三号

受講の申込み

当協会ホームページを参照または協会へ問い合わせ下さい。

ホームページアドレス

<http://www.keiryo.net>

電話〇二二二四六一二四六六

仙台市

消費生活情報誌

「ゆたかな暮らし」

仙台市消費生活センター発行の消費者への情報提供誌、「ゆたかな暮らし」の十一月号の「暮らしの中の計量」で、取引証明に使用されているはかりの定期検査受検義務と、その検査を実施している仙台市指定定期検査機関の宮城県計量協会が紹介されました。



計量法の基礎知識の発行

今年度協会では、計量制度の歴史や計量法に係る計量単位・適正な計量・検定検査・計量証明事業などをまとめた『計量法の基礎知識』五十二頁の冊子を作成しましたので、職場等で活用願います。



協会便り

今年度の協会の検査業務等も、例年並みに戻り業務も毎日に忙しくなり、新人職員も奮闘活躍しております。

新年を迎え、この協会事務局業務の効率的充実改善と、将来を考えた業務強化を図らなければならぬ時期が近づいていると感じます。

今後、検討改善を積極的に図りたいと思いますので、会員各位の皆様よろしくお願いたします。

編集後記

昭和四十二年五月、仙台市作並温泉に近い新川に二ツカウヰスキー創業者のNHK連続ドラマ小説「マッサン」こと竹鶴政孝さんが新しいウヰスキー工場を求めて訪れ、新川の水を口に「ここ、ここが決めた他の土地は見なくても良い」と北海道余市に次ぐ二番目の二ツカウヰスキー工場を仙台の地に作りました。

また、宮城県は冬季オリンピックピックアップユアスケートの金メダリスト羽生結弦・荒川静香さんの男女出身地でもあります。

この自然と人材の宝庫宮城県の、腰折れ消費税に負けない、創造的な復興と飛躍を望みます。



●仙台初売り (表紙写真説明)

仙台初売りは、年の初めに行われる旧仙台藩領内の伝統行事で、江戸時代からの商習慣として国から認められ、特例として他地域より豪華な景品を付けることが可能になっています。特例が適用される期間は三日以内で、正月または旧正月に行うことが出来ませんが、現在は新暦の正月に実施されています。